

2024年度 摂南大学 出題内容と学習のポイント

生物

公募制推薦入試 前期日程・後期日程

●出題内容

問題・解答用紙番号	4・16	
試験時間	60分	
解答形式	マーク	
難易度	いずれの日程においても、教科書に記載されている内容から逸脱した問題は出題されておらず、重要用語に関する知識を中心とした基本～標準レベルの問題が出題されている。計算問題や実験考察問題も出題されているが、教科書の内容を理解できていれば十分に対応できるレベルである。	
問題の内容（構成）	前期日程（11/16実施 4) 〔Ⅰ〕生物と細胞 〔Ⅱ〕遺伝子の発現 〔Ⅲ〕カエルの発生 〔Ⅳ〕刺激の受容と反応 〔Ⅴ〕植物の発芽	後期日程（12/15実施 16) 〔Ⅰ〕代謝 〔Ⅱ〕PCR法 〔Ⅲ〕ヒトの卵形成と発生 〔Ⅳ〕動物の体内環境 〔Ⅴ〕植物の環境応答

●学習のポイント

①重要用語を重点的に理解しておこう

いずれの日程においても、冒頭のリード文中における穴埋め問題や、リード文中の下線部に関する問題を中心に出題されている。教科書の重要用語に関する学習を中心に行い、余裕があれば重要用語を自力で説明できるようにしておこう。

また、傾向としては、特定の分野に偏ることなく出題されている。そのため、苦手な分野は重点的に学習し、克服しておくこと。

②問題集を活用し、十分な演習をしておこう

重要用語に関する知識が身についた段階で、教科書の章末問題や問題集で学習した内容の定着ができているか確認しておこう。なお、間違えた問題については類題などを活用してよく復習しておくこと。

③過去問を活用し、本番の試験に向けた十分な対策をしておこう

大問数は5題で、解答するのに時間がかかる計算問題や実験考察問題も出題されている。そのため、試験慣れしていない受験生は試験時間内にすべて解答するのは難しいかもしれない。過去問を積極的に活用して、時間配分などを意識して問題を解くようにしよう。

2024年度 摂南大学 出題内容と学習のポイント

生物

一般選抜 前期日程 (3科目型・2科目型)

●出題内容

問題・解答用紙番号	23・35	
試験時間	70分	
解答形式	マーク	
難易度	教科書の内容を逸脱した問題は出題されておらず、重要用語に関する知識問題を中心に 出題されている。全体を通して、難易度は基本～標準レベルであり、基礎的な学力がしっかりと身につけているかを問うている内容だといえる。	
問題の内容 (構成)	1/20 実施 23 〔Ⅰ〕生殖と発生 〔Ⅱ〕遺伝情報 〔Ⅲ〕ヒトの体内環境 〔Ⅳ〕タンパク質・細胞の構造	1/21 実施 35 〔Ⅰ〕骨格筋 〔Ⅱ〕生物の体内環境 〔Ⅲ〕代謝 〔Ⅳ〕遺伝情報

●学習のポイント

①重要用語を中心に基礎的な学力を身につけておこう。

出題の傾向として、いずれの日程でも穴埋め問題や重要用語に関する設問が大半を占めている。まずは、学校の授業などで学習した基礎的な内容を覚えているか確認していくところから始めてみよう。

「生物基礎・生物」の内容がバランスよく出題されているため、定期試験などの復習は必ず行い、自身の苦手分野の確認・対策をしっかりと行っておくこと。

②問題集などを利用し、学習した知識が定着しているのかどうか確認しよう。

いずれの日程においても、基礎的な知識を問う問題が多く出題されている。基礎～標準レベルの問題集をくり返し解き、十分な演習を行っておこう。また、図で示したものの名称を解答させるような出題もなされているため、教科書に記載されている図を必ずチェックしておこう。

③過去問を解いて、本番の試験に備えよう。

試験はマーク式であり、記述の正誤の判断を要する出題が散見される。不正解となる選択肢には、受験生が勘違いしやすい内容がよく出題されているため、十分な対策をしておく必要がある。本学や同じマーク式である共通テストの過去問などを積極的に活用し、間違えた問題はノートなどにメモしておこう。

また、時間配分を意識した演習も行い、試験時間内に速く正確に問題を解いていくことを心掛けておこう。

2024年度 摂南大学 出題内容と学習のポイント

生物

一般選抜 中期日程

●出題内容

問題・解答用紙番号	49
試験時間	70分
解答形式	マーク
難易度	教科書の内容の重要用語に関する出題を中心とし、難易度は全体を通して基本～標準レベルといえる。計算問題や実験考察問題などの思考力を要する設問も出題されており、生物に関する基礎知識を用いた応用にも対応できるかを問うような試験内容となっている。
問題の内容（構成）	〔Ⅰ〕細胞と代謝・酵素とその構造 〔Ⅱ〕染色体と遺伝子 〔Ⅲ〕両生類の発生 〔Ⅳ〕刺激の伝導と反応 〔Ⅴ〕植物における花器官の形成

●学習のポイント

①まずは、重要用語の理解から始めよう

I～Vのすべての大問において、リード文中の穴埋め問題が出題されており、重要用語の理解がポイントとなっている。また、「DNAとRNA」、「ATPとADP」などの用語の違いにも意識し、その違いを説明できるようにしておこう。

また、「生物基礎・生物」のすべての範囲から分野の偏りがないように出題する傾向にある。苦手な分野がないよう、さまざまな分野をバランスよく学習するよう心掛けておくこと。

②教科書の章末問題や問題集などを利用しよう

出題される問題は基本～標準レベルであるため、教科書の章末問題などを活用すれば十分に対応することができる。計算問題では「組換え価」や「神経の伝達速度」が出題された。前述のほかに計算問題における頻出分野である、「塩基の割合」、「マイクロメートル」、「細胞周期」などを中心に十分な対策をしておこう。

③入試直前には過去問を利用しよう

大問数が5題であり、比較的問題数が多い。試験本番で余裕をもって解答できるよう、過去問を利用して時間配分を考えて解答する練習をしておこう。